

進路・キャリア通信

令和8年6月22日 第6号
進路指導・キャリア教育担当

県公立高等学校情報



すでに情報をつかんでいる人、ご家庭も多いかと思いますが、今年度、埼玉県で中学校を卒業する人数が昨年度に比べ約1,700人減少するとのことです。さらに、県公立高等学校各校の募集人員が発表されましたが、全県で40校1,600人が募集人員減になるとのこと。下にその学校名をまとめてみました。(いずれも各40人減の学校・学科)

卒業する人数の方が募集減になる人数より多いからといっても、学校によっては志願倍率が前年より厳しくなる…なんてこともよくあることです。自分の進路先の候補として県公立高等学校を考えている人は決して油断することのないように！

全日制(普通)				全日制(総合学科)
朝霞	春日部	坂戸	深谷	久喜北陽
朝霞西	春日部東	坂戸西	本庄	幸手桜
伊奈学園総合	川口	狭山清陵	松山	
入間向陽	川口北	草加	松山女子	
浦和北	川口青陵	草加東	三郷	
浦和東	川口東	所沢中央	与野	
大宮光陵	川越初雁	所沢西	鷲宮	
大宮東	久喜	豊岡		
大宮南	鴻巣	南稜	全日制(商業)	
桶川	越谷西	新座	熊谷商業(総合ビジネス)	

そして、その県公立高等学校を自分の進路先の候補として考えている人はもとより、進学を考えている人にとっての重要な資料にもなる『南部地区中学校長会学力検査』の出題単元表も配布されました。出題範囲を見ればわかる通り、とても広い範囲になっています。ヤマを張ったりすることができる範囲ではありません。要するに中学校入学からここまで学習してきたことを問われることになるわけで、今の自分の学習の定着度合がはっきり見えてくると思います。

まさかと思いますが、「学校の成績に影響しないし、本番で合格すればOKなんだから、こんなテスト、面倒臭いな…」なんて考えを持っている人、いませんよね？ 再三お伝えしてきているように、自分の現状を正確に把握すること＝「自己理解」です。これなしで、進路を決めるなんてことが、おかしいことであるのはわかりますよね。

また、この学力検査の際にはその時点での志望校を書いてもらうことになっています。手元に帰ってくる結果の中に、この学力検査を受けている人の中で自分と同じ学校を志望している人の中で



自分は何番目くらいの点数になっているのか、といった情報も得られます。有効なデータにするためには、夏休み中の三者面談も含めて具体的な進路先について、ひざを突き合わせて家庭で話し合って、ある程度でも良いので絞っていく作業を進めておいてください。どんな進路を選択するにせよ、（とくに「進学」という道を選ぶのなら費用の面を含めた）家庭の協力が絶対に必要になりますので、適当に（この場合の「適当」は「真剣さが足りない」といった意味のもの）決めたり、生徒個人だけの考えで決めたりといったことのないようにしてください。

「面接」にのぞむにあたってのひとつの考え方



就職のための入社試験や今年度、県公立高等学校すべての入学者選抜で導入される「面接」についてひとつの考え方を…。

初対面の人と話をするのは、ましてや相手が大人ならなおのこと、とても緊張することです。「緊張しないようにしよう！」と声高に叫んでも、それはほぼ不可能なので、どうこう考えても仕方がないこととあきらめるしかありません。問題なのは「された質問に対して、どう答えたら良いか」がきちんとできるようになることです。想定される質問の答えを事前に用意したり、それを暗記したり…それも間違いではないと思いますが、それだと想定外の質問については、答えられなかったりトンチンカンな答えを出したりしてしまいます。

ではどうしたら良いのか…？

「自分はなぜその進路を選んだのか」を具体的にはっきりさせることだと思います。自分は将来どうしたいのか、自分の興味関心がどんなところにあるのか、などをはっきりさせることです。「将来こうしたいから、こんなことに興味関心があるから、だからこの進路を選んだ」と自分のことばできちんと言えれば、どんな質問をされたとしても即座に答えられるはずだと思います。将来自分のしたいことや、興味関心のあることに関連したことなら少々想定外な質問でも絶対答えられますよね。だって、それは自分の思っていること、知っていること、考えていることに関連してるいのですから。

つまりは自分の『思い』がしっかりさえしていれば、面接で何を聞かれても即座に答えられることにつながるはずだということです。

『自己理解』の重要性がこういったところにもつながっているのです。